

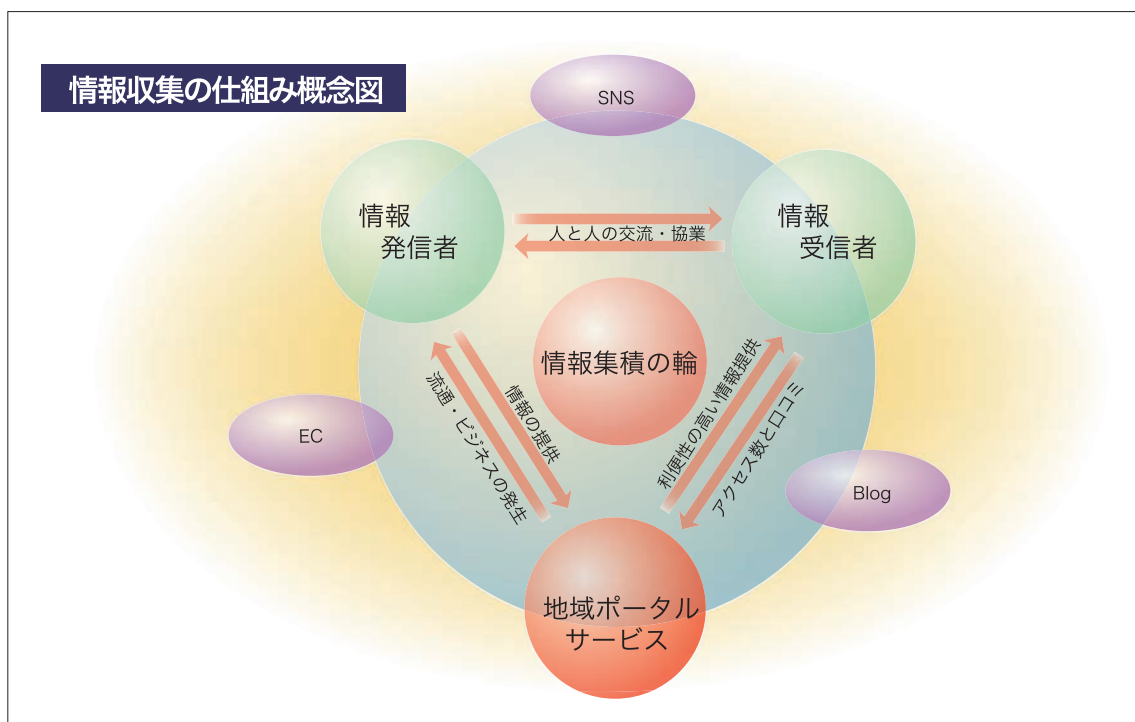
(4) 情報収集による多様なコンテンツの生成

ア 地域情報化を支える情報収集の好循環

南砺市、敦賀市にみられる地域ポータルサイトやデータ放送では、膨大な量の地域情報が提供されており、これが情報受発信者両方のモチベーションに繋がっている。情報受信者は、生活に必要な情報がポータルサイトやデータ放送によって概ね手に入ることを理解しており、情報収集への信頼性が受信のアクセストラフィック（情報受信量）に繋がっている。

市民から得た多くのアクセスにより、今度は情報発信者の情報発信意欲が高まり、情報がさらに蓄積されていくという好循環が生まれている。コンテンツ面から地域情報化を考えた場合は、両市の実例に見られるように、多くの情報が自然に収集する仕組みづくりが重要なことだといえる。情報収集の仕組みの概念は図3-6のとおりである。

図3-6 情報収集の仕組み概念図

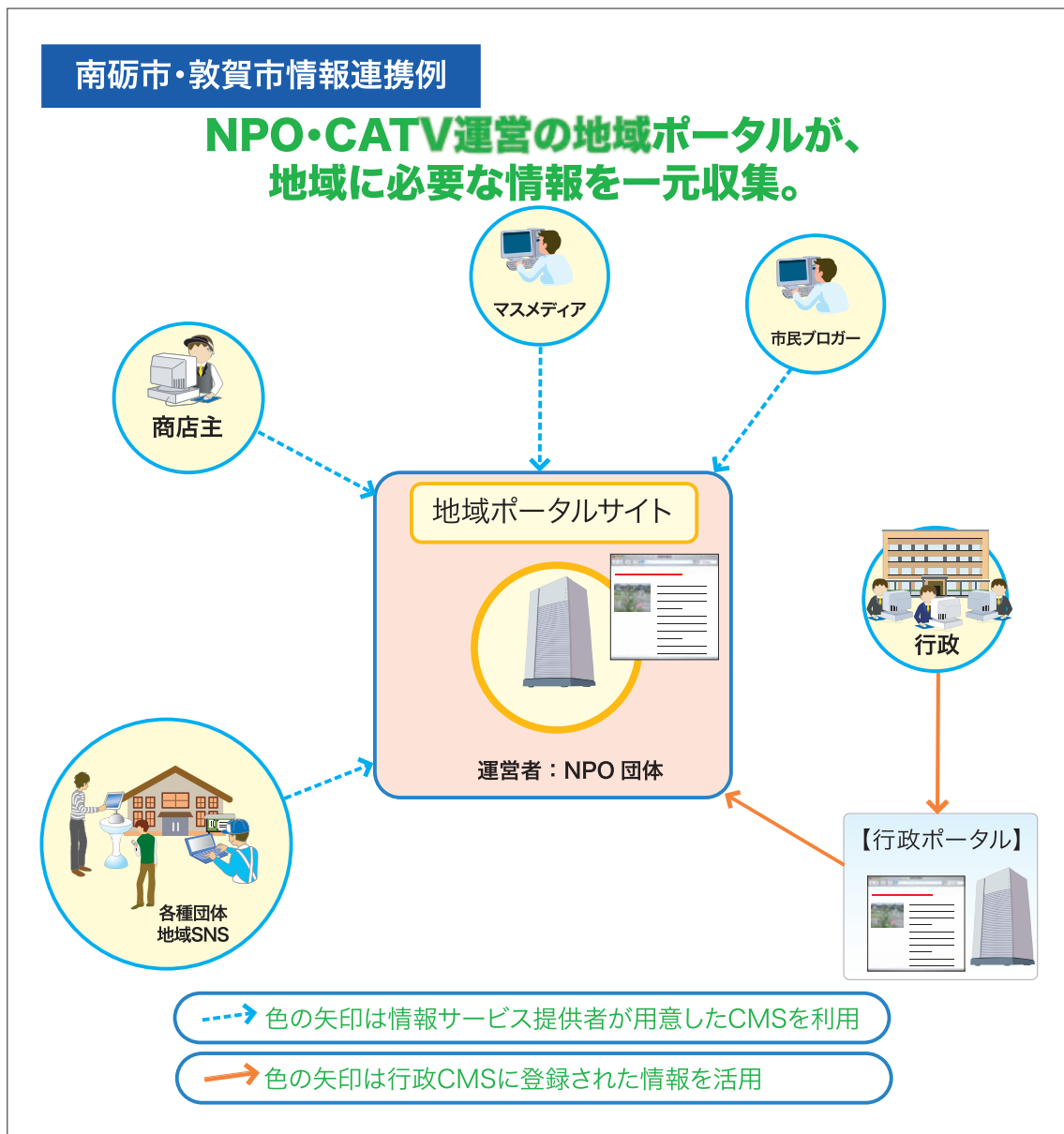


イ 地域協働による情報収集の仕組みづくり

情報が自然に収集される仕組みづくりを進めるためには、多くの人たちが共通の仕組みを利用し、幅広く境目の無い情報収集を進める必要がある。そのために必要なものが「協働」の仕組みづくりである。

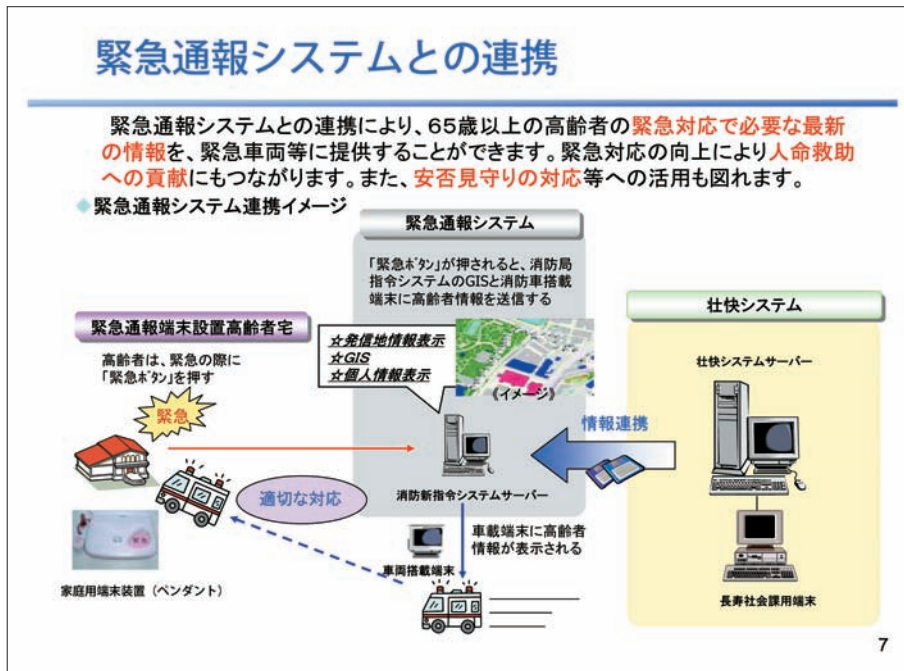
南砺市や敦賀市では、行政や地元CATV局、地域情報化促進NPO等が連携し、コンテンツ作りを推進し運営している。両市の情報連携例は図3-7のとおりである。

図3-7 南砺市・敦賀市情報連携例



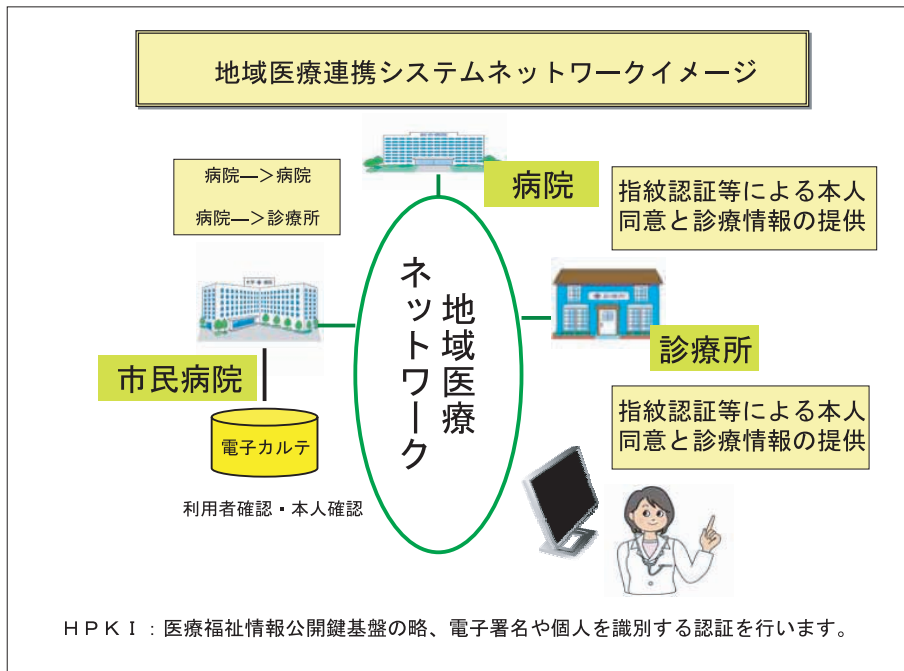
また、横須賀市では福祉を推進するためのシステムが救命・緊急災害用のシステムと連携され、65歳以上一人暮らしの高齢者の緊急対応時に必要な最新の情報を緊急車両等に提供することも可能となっており、地域行政が連携し福祉サービスの利便性を向上させている。横須賀市の壮快システムと緊急通報システムとの連携は図3-8のとおりである。

図3-8 緊急通報システムとの連携



富山市の事例では地域における医療機関が協働しシステム連携を行っており、これまでの「病院完結型医療」から中核病院が「急性期医療」、診療所等が「安定期・慢性期医療」を分担し、地域全体で患者を中心とした質の高い継続性のある医療を提供する「地域完結型医療」を進めている。富山市の地域医療連携システムネットワークイメージは図3-9のとおりである。

図3-9 地域医療連携システムネットワークイメージ



ウ 情報収集による効果

地域が様々な形で協働可能な情報収集の仕組み（技術基盤）によってICT利活用の場が広まれば、CATV局などの地域通信キャリアは顧客の増大化が見込める。

地域住民は、自発的な情報利活用により、コミュニティの結束が計れ、安心・安全な生活環境を手に入れることが可能となる。地元商工業者などのサービス提供者は、地域協働による情報収集の仕組みを利用し自分たちの経済活動を促進することができ、行政はコストを抑えた住民サービスを提供することが可能となる。

地域特性に合わせた情報の連携、協働の仕組み作りが今後北陸地域のICT利活用を推進する上で期待される。